

いわて復興だより

がんばろう！岩手 つながろう！岩手

三陸復興

第78号

平成27年1月1日号

復興に向けて歩み続ける岩手県の今を紹介します

平成23年3月11日に発生した東日本大震災津波。発災以来、全国そして海外からも多くの温かい励ましや御支援をいただいております。心から感謝申し上げます、この「つながり」を大切にしていきたいと思っております。

新年を迎え、より一層の復興の加速と、今後も国内外の方々からのご支援を受けながら歩み続ける岩手県。復興に向けて歩み続ける岩手の今を紹介します。

平成26年【第4回】「いわて復興ウォッチャー調査」の結果を公表しました

岩手県では、東日本大震災津波からの復興状況を定期的に把握するため、「いわて復興ウォッチャー調査」を実施しています。

これは被災地域に居住又は就労している方々を対象に、3ヶ月に1回実施するものです。

今回は、平成26年4回目（平成26年11月実施）の調査結果から、主なデータを紹介します。

被災者の生活の回復に対する実感

「回復」又は「やや回復」：52.3%（前回調査：55.3%）

- ・前回調査と比べ、3.0ポイント下回った。
- ・高台移転地の造成などが進んだという声がある一方、応急仮設住宅での生活の長期化による精神的な疲弊や住宅再建にむけた資金繰りを不安視する声も見られた。

地域経済の回復に対する実感

「回復」又は「やや回復」：52.0%（前回調査：51.9%）

- ・前回調査とほぼ同水準。
- ・大型店や公共施設の周辺の活気や住宅建設を評価する声がある一方、人手不足を懸念する声や復興需要が終わった後を心配する声も見られた。

災害に強い安全なまちづくりに対する実感

「達成」又は「やや達成」：28.8%（前回調査：25.4%）

- ・前回調査と比べ、3.4ポイント上回った。
- ・防潮堤工事の進捗を前向きに評価する声がある一方、防災意識の希薄化などを懸念する声も見られた。

詳しくは [平成26年【第4回】「いわて復興ウォッチャー調査」](#) [検索](#)

台北市で「日本東北六県感謝祭」が開催されました

12月19日（金）から22日（月）の4日間、花博会場 Expo Dome（台湾・台北市）にて「日本東北六県感謝祭」が開催されました。

これは東日本大震災津波の被災地への台湾からの支援に対して感謝を伝えると同時に、東北を中心とした訪日旅行の魅力を発信し、今後も観光、物産面での交流促進を目的としたものです。

岩手県からはPRブースが来店され、四季を通じた岩手県の魅力を発信しました。

また、会場に設けられたメインステージでは、さんさ

踊りの披露や大槌町出身の歌手・臼澤みさきさんによる歌の披露の他、来場者も参加するわんこそばの体験が行われました。

臼澤みさきさんはステージで「台湾の方々からは多くの支援を頂き、沿岸地域も少しずつ元気を取り戻してきています。台湾の方々に心から感謝致します。岩手にも是非おいで頂き、復興に向けて歩む岩手県の姿を見て下さい。」と感謝の気持ちを伝えました。

今回のイベントは情報を発信するだけでなく、今まで以上に台湾との交流が深まる4日間となりました。



「日本東北六県感謝祭」の会場の様子



台湾の来場者が参加するわんこそば体験



岩手県の情報を発信するPRブース

～新たなふるさとづくりに向けて～ いわて三陸復興フォーラム

参加者募集中

開催日 2015 1/15（木）16（金） 13:30-16:55（予定）

場所 いわて県民情報交流センター「アイーナホール」
ほか盛岡市内、大船渡地区合同庁舎

詳細・申込方法は、以下の県HPをご覧ください。
<http://www.pref.iwate.jp/event/fukkou/031401.html>

大震災津波の記憶を永くとどめ、被災地の状況に関心を持っていただくとともに、幅広い参画とつながりのもと、引続き一日も早い復興に向けて気運を高めます。

入場無料



お問合せ：岩手県復興局復興推進課 ☎ 019-629-6925

高校生らが「明るいお正月を」と門松をプレゼント

宮古市
大槌町

県立花巻農業高等学校の生徒が、被災地の人たちを元気づけたいとの思いから、授業の一環で作った門松を宮古市と大槌町に贈りました。

門松は、同校環境科学科緑化系2年の生徒たちが製作したもので、12月15日(月)には、6人の生徒と教員が宮古市役所を訪れ、玄関前で手際よく飾りつけを行いました。

同校の生徒代表は「宮古市の人たちに明るいお正月を迎えてもらえるように心を込めて作りました。この門松を皆さんに見てもらい少しでも元気になってもらえればと思います。」と挨拶。山本正徳宮古市長は「華やかな雰囲気となり元気が出てきました。来年は一層復興を進めていきます。」と応えていました。



門松を贈った県立花巻農業高等学校の生徒、教員と山本正徳宮古市長(中央)(写真提供:宮古市)

被災地・三陸の復興へ向け、多くの若者が情熱を注いでいます。連載「未来のさんりくびと」では、毎号、復興への熱い想いを秘めた若者を紹介していきます。

第32回目は、竹野 美貴子さんを紹介します。

PROFILE

大船渡市大船渡町出身。
高校卒業後、東京でパティシエとして働き、2011年2月に大船渡にUターン。
翌月に東日本大震災津波に遭う。
現在、大船渡市でタケノ文具店長として働きつつ、大船渡の情報を発信する「ぼんずプロジェクト」を立ち上げ活動を行っている。

活動の広がりを実感

自分の住んでいる大船渡の情報を発信することが出来るのであればとの想いで、2012年5月に「ぼんずプロジェクト」を立ち上げ、復興支援商品の開発、販売を行っている竹野さん。

商品であるはがきなどの紙製品は、三陸町越喜来(おきらい)にあった防風林がなぎ倒され、がれきとなった被災松を薄くスライスして作ら

陸前高田の夢を詰め込んだ 駅弁「たかたのゆめ」販売開始

陸前高田市

12月11日(木)、陸前高田の夢と願いを込めた新品種米「たかたのゆめ」を使用した駅弁「たかたのゆめ」の販売が開始されました。

この駅弁は、陸前高田市の依頼を受け、株式会社斎藤松月堂(一関市)が製造。

陸前高田市産のお米「たかたのゆめ」をベースに、カキの照り焼き、イクラのしょうゆ漬け、銀ザケの塩焼き、ホタテの含め煮等、三陸の海の幸を楽しめる幕の内弁当で、盛岡駅、一ノ関駅、東京駅で販売されています。1,200円(税込)。

駅弁「たかたのゆめ」の発売は、復興に取組む地元の農水産業の活性化とともに、陸前高田のPR商品として期待されています。



駅弁「たかたのゆめ」(写真提供:陸前高田市)

れたもので、売上の一部は、大船渡市の復興事業に寄付されています。

「はがきは買った人で終わるのでなく、買った人が第三者に送ることで広がり生まれています。はがきを受け取った第三者の方から連絡を頂くこともあり、応援のメッセージなども多く嬉しく思います。」と活動の広がりを実感しています。

商品を通して継続的な支援を

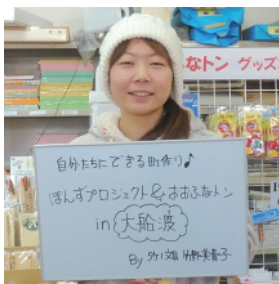
「被災地から離れば離れるほど、「被災地」とか「復興」という言葉が薄まっていくことは致し方ないと思います。その中で一年に一回でも震災のことを思ったり、心の片隅に思ってくれることが復興につながっていくと思います。」と復興支援への想いを語ります。

「ぼんずプロジェクト」の活動と同時に、大船渡市のゆるきゃら「おおふなトン」の商品化も手がけている竹野さん。

「大船渡をPRする商品も多くあるので、みなさんには是非手にして欲しいです。」と今後も継続的な支援に期待を寄せました。

未来のさんりくびと

タケノ文具 店長
竹野 美貴子
(たけの みきこ) さん



竹野さんからのひと言:
自分たちにできる町作り♪
ぼんずプロジェクト&おおふなトン in 大船渡

岩手県の被害状況

平成26年11月30日現在

- ▶人的被害 死者(直接死):4,672名 行方不明者:1,130名
- ▶建物被害(住家のみ、全半壊) 25,716棟

被害状況等の詳細

義援金・寄付金の募集等

[いわて防災情報ポータル](#)

[検索](#)

皆様のご支援、ありがとうございます

平成26年11月30日現在

- ▶義援金受付状況 約181億9,584万円(90,312件)
- ▶寄付金受付状況 約196億944万円(7,086件)
- ▶いわての学び希望基金受付状況 約70億6,619万円(14,290件)

※被災した子どもたちが勉強やスポーツ等に励めるよう「くらし」「まなび」の支援に使われます。

ビジュアル豊富な【いわて復興だより [Web](#)】もご覧ください!! <http://iwate-fukkoudayori.com>

いわて復興だより 第78号 平成27年1月1日号 企画・発行:岩手県復興局復興推進課 ☎019-629-6925

いわて復興だよりバックナンバーは

[いわて復興だより](#)

[検索](#)

編集・印刷:シナプス